

お わ り に

群馬大学共同教育学部附属小学校 副校長 木口 卓哉

今から一年ほど前を振り返ってみますと、新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、全国の学校が臨時休業となり、緊急事態宣言も発出されました。そのような状況下で、私たちには、令和2年度の公開研究会を中止とする選択肢しかありませんでした。

一方で、私たちは一年間をかけて、試行錯誤を繰り返しながら、オンラインを活用した「会議」、「学校行事」、「授業公開」、「研究会」などを実施するための様々な手法を身に付けてきました。

このような経緯を経て、コロナ禍の中、オンラインでの開催ではありますが、令和3年度の公開研究会を実施できますことを嬉しく思っております。

また、GIGAスクール構想による1人1台端末配備計画の前倒しに伴い、タブレット端末をはじめとするICT機器の効果的な活用方法も探ってまいりました。そして、それらの取組を「ICT活用実践事例集」にまとめ、発表することといたしました。本研究紀要とともにご高覧いただき、私たちの取組を、少しでも皆様の実践の参考にしていただければ幸いに存じます。

さて、私たちは、コロナ禍の中でも、「子どもたちの学びを止めない」、「自分たちの教育研究を止めない」という思いを強くもつとともに、今後も一層激しく変化していくであろう複雑で不確かな時代を自分らしく生きていける子どもを育てていくことが大切であると考え、研究主題を「社会に変革を起こす子どもの育成」として、新たな研究に取り組んでまいりました。

特に、本年次は、副主題を「情報活用の視点から行う授業改善を中心に位置付けたカリキュラム・マネジメント」とし、子どもたちの主体的、対話的で深い学びを保障するICTの活用の仕方を探ってきました。

私たちにとって、授業改善は永遠の課題です。本校職員は、これからも、子どもたちの豊かな成長を願い、「社会に変革を起こす子ども」を育成できるよう、よりよい授業を目指して全力で取り組んでまいります。そして、新型コロナウイルス感染症が一刻も早く収束・終息し、多くの皆様と、教育や授業について、直接語り合える日が来ることを、心から願っております。

結びに、本校の研究を進めるにあたり、群馬県教育委員会をはじめとする関係機関の皆様方、研究協力者である群馬大学共同教育学部の先生方には、熱心なご指導と丁寧なご助言をいただきました。この場を借りて深くお礼を申し上げます。今後とも、本校の取組が、県内外の多くの皆様の参考にしていただけるものとなるよう、引き続きご指導をお願い申し上げます。